



広報ボランティアのページ

●担当ボランティア／日置雅夫・岩下茂子

一宮市内にも縄文遺跡

縄文時代はどのような状況だったのだろうか。

4000～5000年前の縄文中期から一宮市内には縄文人が住んでいました。佐野遺跡（標高10m）、馬見塚遺跡（標高7.5m）、下り松遺跡（標高6m、宮地花池南）、北川田遺跡（標高6m、荻安賀）などが見つっています。尾張平野の中心部の自然堤防帯に遺跡が分布しています。

佐野遺跡は縄文・弥生両時代にわたる複合遺跡であり、馬見塚遺跡では晩期縄文時代の生活と前期弥生時代の生活が200mの近距離において、同じ地形の同じ土層のうえで営まれていました。

何を食べていたのだろうか。石のやりりや石斧（せきふ）などが見つかっており、獣を狩り、どんぐりやシイの実を採集して食べていたと考えられています。佐野遺跡では漁網や釣り糸の下部に付けておもりとして使用する石錘（せきすい）が数多く見つかっており、魚を捕って食べていたようです。但し、貝塚は見つかっていないようです。

縄文から弥生にかけ人々が住み続け、お米の水田栽培が始まり、人口が増加したと考えられます。なお、市内には弥生時代の遺跡が標高5m～10mの地形面の地下にあり、千秋町（5カ所）や萩原町（8カ所）などに多く分布しています。（日置）



賀曾利貝塚

正月飾りのしめ縄作りの体験をしました！！

『一宮手話サークル昼の部』はいろいろな行事や体験を通じて、ろう者との交流を深め、楽しみながら手話を学んでいるサークルです。今回は正月飾りのしめ縄作りを体験した事を報告させていただくことで、サークルの雰囲気少しでも感じてもらえたら嬉しいです。ろう者3名、聞こえる人8名が参加しました。

講師の森内きく子さんにお手伝いをしていただきながら、水引きを使ったり、さまざまな装飾品を用いたり、皆さん思い思いの素敵な正月飾りを楽しみながら完成させることができました。しめ縄のマメ知識もとても勉強になりました。例えば、しめ縄とは、新しいわらで作る神迎いの正月飾り、門松と共に松の内(7日ないし14日)まで飾る。年神様に降臨していただく目印となります。そして邪悪なものが家の中に入らないように中と外を分け、結界の役割を果たす魔除けともなります。

今後もサークルではさまざまなイベント行事を企画しています。節分会やひな祭りなどの行事が目白押しです。

場所は一宮市社会福祉協議会大和事務所で、基本のサークル活動は毎週月曜日午前10時～正午に行っています。手話に興味のある方、サークル見学も可能です。お待ちしております。（岩下）

